

専門学校 静岡工科自動車大学校

授業計画（シラバス）作成ガイドライン

1. 目的

本校入学生には教育課程表に掲載されている科目について、その履修時間、講義の内容、学習の評価方法などを掲載し、学修する方向や予備学習および復習の手引きとして、全学科の授業計画を掲載している。

また、生涯教育推進の観点から大学や大学院への編入学を希望する本校専門課程修了（卒業）対象者への単位変換（互換）が証明出来る資料として当該シラバス（授業計画表）を整備している。

2. 単位変換（互換）、付与の基準

本校における進級および卒業の要件としては、履修時間／年次制をとっており、単位への変換（互換）は下記に示す本校基準に基づいて変換している。

(1) 授業の方法（基本的形態）と単位時間

- ① 講義：15時間（50分／時間）の授業を持って、1単位とする。
- ② 実習、演習：30時間（50分／時間）の授業を持って、1単位とする。
- ③ 実学一体授業：20時間（50分／時間）の授業を持って、1単位とする。

(2) 授業時間と単位数の扱い

- ① 授業時間の1時間を90分とする。
- ② 授業時間数×90分を50分で除した値が単位数となる。
（小数点以下は切り捨て）
- ③ 科目の単位を付与するに当たって、科目の学修時間が1単位相当に満たない場合には、1回の受講をテーマとした課題レポートの提出をもって、1回の受講を学修したものとみなすことが出来る。

3. 記載の内容

- (1) 授業の方法（形態）は、講義、実習、演習、実学一体科目のいずれかを記載している。
- (2) 単位数は、上記の単位換算例を基本として計算している。
- (3) 到達目標は、該当科目で習得すべき内容とその習得レベルを記載している。
- (4) 授業計画（テーマおよび内容）
 - ① 講義科目の場合、（形態該当欄の講義に○印）
1回の授業は90分（1時間）を記載している。
 - ② 実習、演習科目の場合、（形態該当欄の実習に○印）
1回の授業は180分（2時間）を記載している。
 - ③ 実学一体科目の場合、（形態該当欄の講義または実習に○印）
1回の授業は180分（2時間）を記載している。
- (5) 教科書、配布物
教科書、配布物は、①著書名、②著作者名、③出版社又は販売会社名等を掲載している。
- (6) 評価方法
 - ① 評価方法は、試験、課題（実習にあつては作品）の提出、レポート、及び出席状況、受講状況などの評価配分を合計100点として素点計上し、教務規定に基づいて段階評価する。
 - ② 本校学則第11条に定める成績評価は、教務規定第5条に定めている。
- (7) その他の記入
授業等で使用する教材は、社名、型式、種類、装置概要、特徴などを記載するほか、OHP、ビデオ、カットモデル、その他、参考文献、受講心得に至るまで、必要に応じた記入を行っている。

4. 教育課程表とシラバス（授業計画表）の掲載順序

- (1) 各科の教育課程表には、科目の履修時間数（1時間＝90分）と換算単位数を掲載している。
- (2) シラバス（授業計画表）は、学科ごとに分け、基本的に学年毎に教育課程表の一般科目、専門科目の科目順に掲載している。

5. 参考

本校の単位変換（互換）基準は、下記の専修学校設置基準に準じている。

専修学校設置基準抜粋

第3章 教育課程等

（単位時間）

第9条

専修学校の授業における1単位時間は、50分とすることを標準とする。

（各授業科目の単位数）

第23条

第3項

1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、専修学校の教育の特性を踏まえつつ、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

1. 講義および演習については15時間から30時間までの範囲で専修学校が定める授業時数をもって1単位とすることができる。
2. 実験、実習及び実技については30時間から45時間までの範囲で専修学校が定める授業時数をもって1単位とすることができる。